

関西経済レポート (1月号)

- ❖ 11月の鉱工業生産指数は3カ月ぶりの前月比マイナス。12月の実質輸出は前月よりもマイナス幅が拡大しており、更なる減産が予想される。
- ➡ 12月の貿易は、原油価格の下落を反映し輸入の伸びは4カ月連続のマイナスとなったが、輸出も3カ月連続のマイナス。結果、貿易収支は2カ月ぶりの黒字となった。
- ❖ 12月の消費者態度指数は3カ月連続の改善、景気ウォッチャー調査(現状判断DI)も6カ月ぶりの改善。一方、先行き見通しは、暖冬が続き、冬物商品への売れ行きを不安視する声が多く、2カ月連続で悪化した。
- ➡ 12月の大型小売店の販売額は、2カ月ぶりの前年比増加。
- ❖ 12月の新設住宅着工戸数は前年比-5.2%と2カ月連続の減少。
- ➡ 12月の有効求人倍率は2カ月連続の改善。一方、完全失業率は前月から小幅悪化した。労働力人口の増加によるもので、再び職探しが行われるようになったとみられる。雇用情勢は堅調が続いている。
- ➡ 12月の公共工事請負金額は6カ月ぶりの前年比微増となった。11月の建設工事は3カ月連続の同マイナス。関西の公共工事は微増となったが、全国では減速トレンドが続いている。
- ➡ 中国2015年10-12月期の実質GDP成長率は前期より減速。結果、2015年のGDP成長率は実質成長率が名目成長率を上回った。物価動態を見れば、生産者物価指数の下落が続いており、過剰生産の物価押し上げ圧力が厳しくなっている。

※「近畿」「関西」は、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山の2府4県。
鉱工業生産、大型小売店販売額のみ、福井を含む2府5県。

※本レポートは、一般財団法人アジア太平洋研究所
“Kansai Economic Insight Monthly”と連携しています。

～ 関西経済のトレンド ～

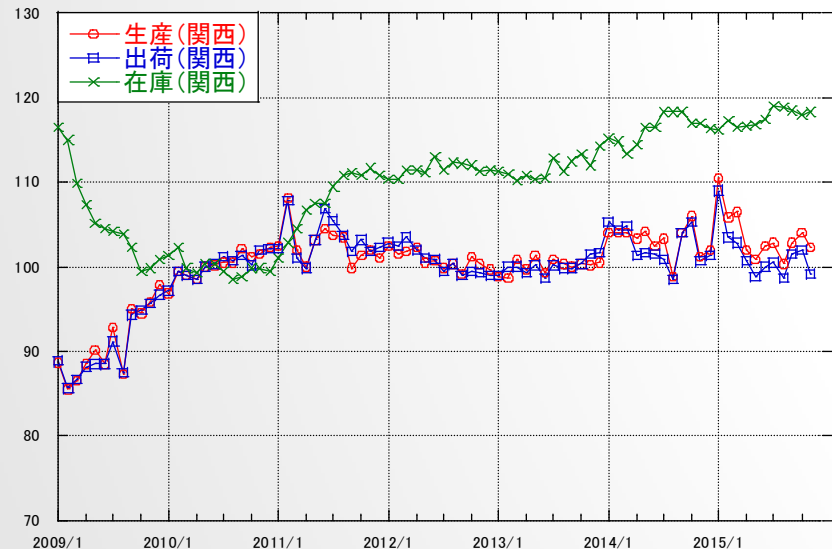
	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
生産	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↗	→	↘	↗	↗	↘	
貿易	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	↗	→	↗
センチメント	↗	↗	↗	↗	→	↘	↗	↘	↘	↘	→	↘	↗
消費	↗	→	↗	↘	↗	↗	→	↗	↗	↗	↗	→	→
住宅	↘	↘	↘	→	↘	↗	↗	→	→	→	↗	→	↘
雇用	↗	→	→	→	↗	↗	→	↗	↗	↗	→	↗	↗
公共工事	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	→	→
中国	↘	↘	→	↘	↘	→	→	→	↘	→	→	→	↘

～目次～

生産	1
輸出入	2
消費者センチメント	3
個人消費・住宅	4
雇用	5
公共投資	6
中国経済動向	7

～生産～

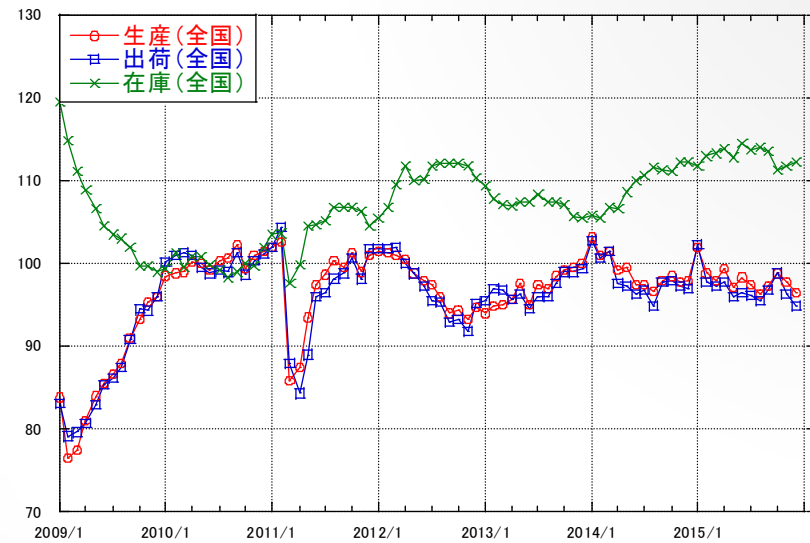
鋳工業指数の推移（近畿・2015年11月まで）、2010年=100



(出所) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

- 11月の鋳工業指数(確報値：季節調整済)を見ると、生産は102.3で前月比-1.7%、出荷は99.2で同-2.8%といずれも3カ月ぶりの下落。一方、在庫は118.3で同+0.2%と2カ月ぶりの上昇。
- 業種別に生産指数をみると、金属製品(同-17.9%、2カ月連続)、はん用・生産用・業務用機械(同-4.9%、2カ月ぶり)情報通信機械(同-12.2%、2カ月ぶり)等が減産。一方、電気機械(同+7.9%、2カ月ぶり)、輸送機械(同+7.9%、2カ月連続)、窯業・土石製品(同+3.4%、4カ月ぶり)等が増産。
- 足下、関西の実質輸出の減少と歩調を合わせて、生産は減少となった。12月の実質輸出は前月よりも一層大きな減少幅を示しており、更なる減産が予想される。

鋳工業指数の推移（全国・2015年12月まで）、2010年=100

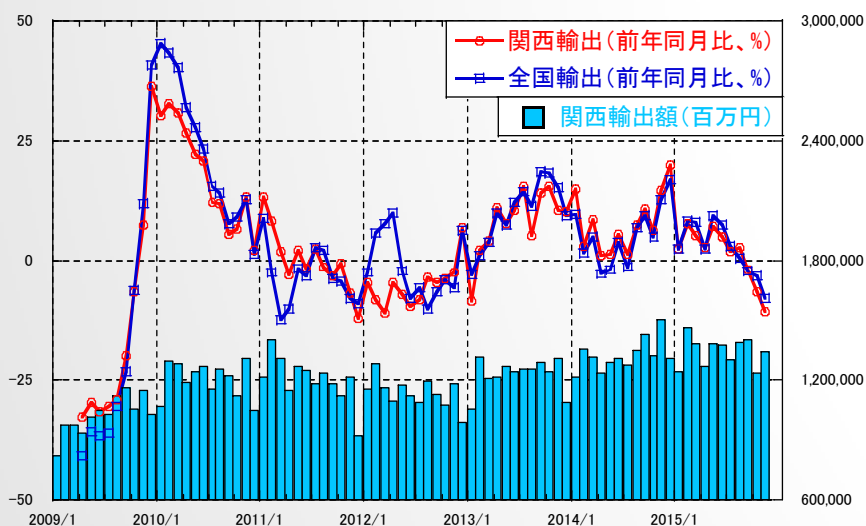


(出所) 経済産業省「鋳工業指数」

- 全国における12月の鋳工業生産指数(速報値、季節調整済)は96.5となり前月比-1.4%、出荷は94.8で同-1.7%といずれも2カ月連続の下落。在庫は112.3で同+0.4%と2カ月連続で上昇した。
- 業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(同-2.9%、2カ月連続)、電子部品・デバイス(同-3.5%、2カ月連続)、輸送機械(同-0.9%、2カ月連続)等が減産となった。一方、窯業・土石製品(同+2.0%、5カ月ぶり)、情報通信機械(同+1.7%、3カ月ぶり)、化学(除. 医薬品)(同+0.3%、3カ月ぶり)等は増産となった。
- 結果、10-12月期の生産は前期比+0.7%と3期ぶりの増産となった。今月の製造工業生産予測調査では、2016年1月は同+7.6%と大幅増産も、2月は同-4.1%の減産の見込みとなっている。

～輸出入～

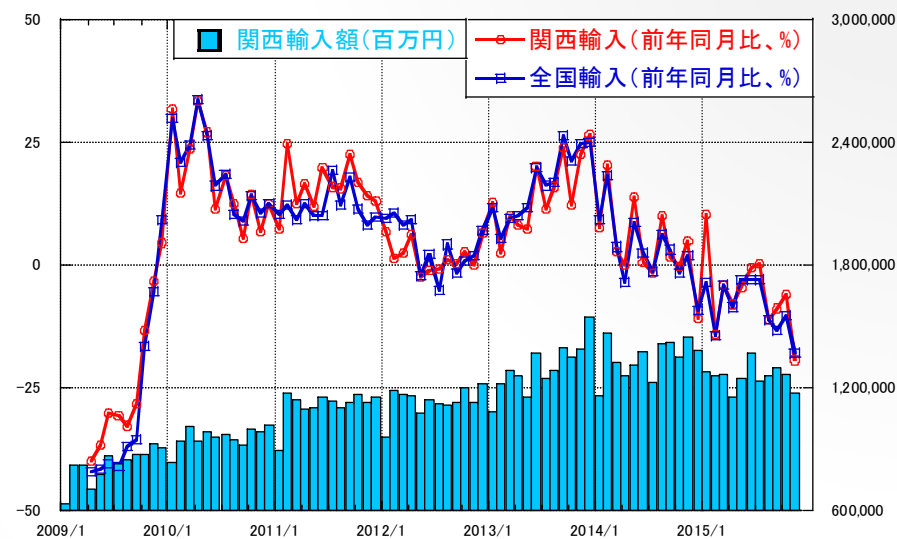
輸出動向 (右: 輸出額、左: 前年同月比) (2015年12月まで)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

- 関西12月の輸出額(速報値)は1兆3,385億円。前年同月比-10.8%と3カ月連続の減少。
- 財別に見れば、鉄鋼、半導体等電子部品の輸出が減少。
- 全国12月の輸出額(確報値)は6兆3,382億円、前年同月比-8.0%と3カ月連続の減少。財別に見れば、鉄鋼、有機化合物、鉱物性燃料の輸出が減少。一方、自動車は増加した。
- なお、足下、為替レート(税関長公示レートベース)は122.63円と前年同月比-3.4%の円安であった。円安による輸出額増加の伸びは、随分、薄まりつつある。

輸入動向 (右: 輸入額、左: 前年同月比) (2015年12月まで)

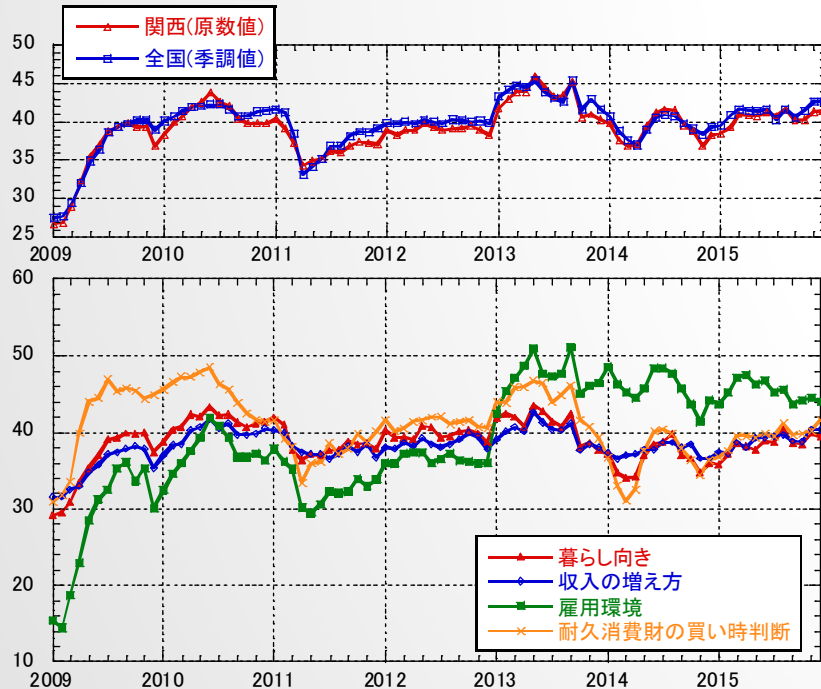


(出所) 財務省「貿易統計」

- 関西12月の輸入額(速報値)は1兆1,709億円、伸びは前年同月比-19.3%と4カ月連続の減少。
- 財別に見れば、天然ガス及び製造ガス、原油及び粗油が減少した。
- 全国12月の輸入額(速報値)は6兆1,979億円、前年同月比-18.0%と12カ月連続の減少。
- 財別に見れば、原粗油、液化天然ガス、石油製品等の輸入が減少している。
- 貿易概況(速報値)によれば、12月関西の貿易収支は1,675億円と2カ月ぶりの黒字となり、黒字幅は前年同月から1,173億円改善した。全国の貿易収支(確速値)は1,403億円と2カ月ぶりの黒字となり、黒字幅は前年同月から8,059億円改善。

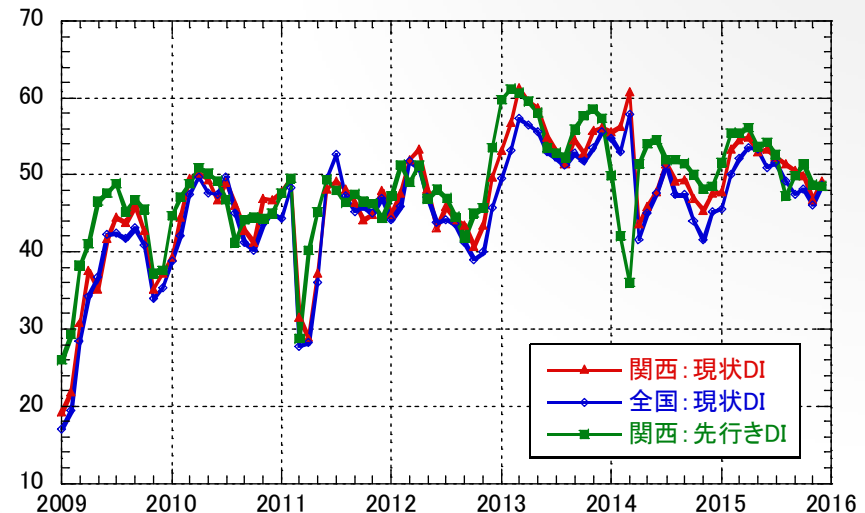
～消費者センチメント～

消費者態度指数(2015年12月まで)



(出所) 内閣府「消費動向調査」

景気ウォッチャー調査(2015年12月まで)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

- 関西の12月の消費者態度指数(原数値)は前月比+0.1ポイントの41.4と小幅改善。3カ月連続のプラス。全国(季節調整値)でも同+0.1ポイントの42.7とこちらも3カ月連続の改善。ガソリン価格の低下傾向が改善に寄与したものの、株価下落の影響もあり、小幅な伸びにとどまった。内閣府は消費者心理の基調判断を「持ち直しの動きがみられる」として据え置いた。
- 関西で同指数の構成項目をみると、「耐久消費財の買い時判断」が同+1.3ポイント改善(3カ月連続)した。一方、「収入の増え方」は同横ばい、「雇用環境」は同-0.4ポイント悪化(3カ月ぶり)、「暮らし向き」は同-0.5ポイント悪化(2カ月ぶり)した。

- 関西の12月の現状判断DIは前月比+2.4ポイント上昇し49.2となり、6カ月ぶりの改善。しかし、景況感の良し悪しの分かれ目となる50を3カ月連続で下回っており、回復は鈍い。理由として、暖冬のため、衣料品や家電、食品を中心とした季節商品の売れ行きに影響が出たことや、中国経済の減速、免税対象商品拡大から1年が経過したことによる減速感などが影響した。全国は同+2.6ポイント上昇し48.7となり、2カ月ぶりの改善となったが、判断の分かれ目となる50を5カ月連続で下回った。
- また、先行き判断DIは、関西では48.5と前月比-0.2ポイント低下し、2カ月連続の下落。暖冬が続く見通しから、冬物商品への売れ行きを不安視する声が多く、先行き見通しを押し下げた。

～個人消費・住宅～

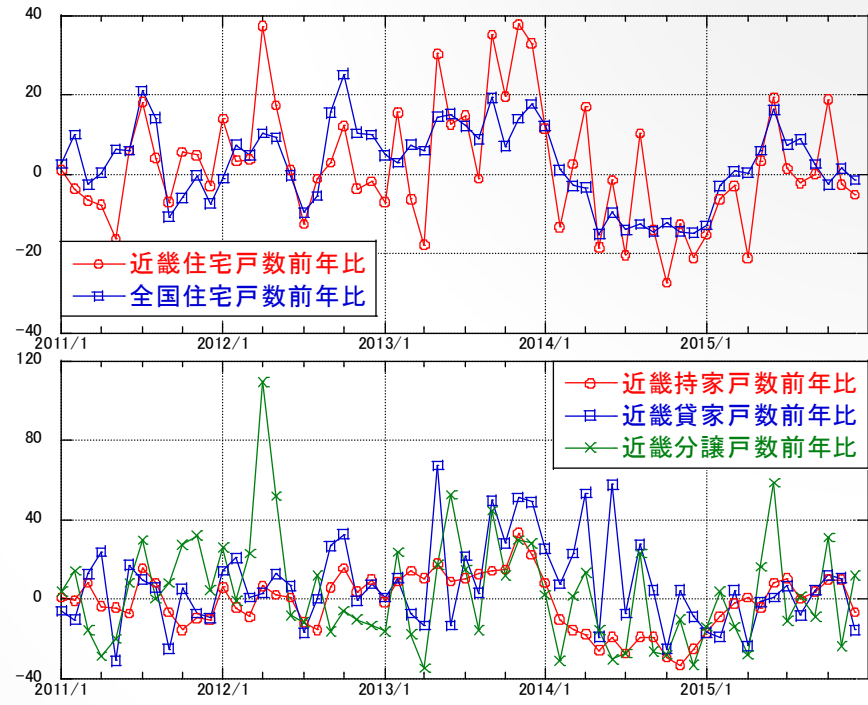
大型小売店販売額（前年同月比：％、2015年12月まで）



(注) 福井県を含む。
(出所) 経済産業省「商業動態統計」

- 関西12月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は、前年同月比+0.6%の増加。2カ月ぶりのプラス。
- 百貨店は同+0.2%増加し、2カ月ぶりのプラス。
- スーパーは同+0.6%と9カ月連続のプラス。
- 全国の大型小売店販売額(12月、全店ベース)は同+0.9%と2カ月ぶりのプラス。
- 関西、全国共に、消費は若干のプラスとなった。

新設住宅着工(前年同月比：％、2015年12月まで)

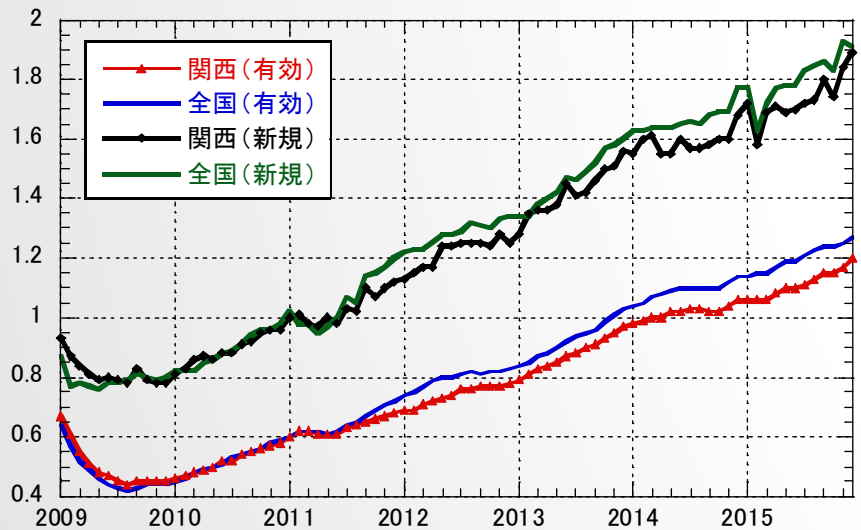


(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

- 関西12月の新設住宅着工戸数は11,024戸。前年同月比-5.2%と2カ月連続のマイナス。
- 全国は75,452戸、同-1.3%減少し2カ月ぶりのマイナス。
- 関西の住宅着工を利用関係別にみると、持家は2,890戸の同-6.6%と7カ月ぶりの減少、貸家は4,141戸の同-15.3%と4カ月連続の大幅マイナス。分譲は3,929戸と同+12.3%の大幅増加。2カ月ぶりのプラス。
- 12月の関西マンション契約率は61.7%(季節調整値、APIR推計)。好不調の目安となる70%を2カ月ぶりに下回り、前月(70.8%)から大きく低下した。首都圏も69.0%(季節調整値、APIR推計)と、前月(85.5%)から大きく下落した。

～雇用～

求人倍率の推移 (季節調整値、2015年12月まで)



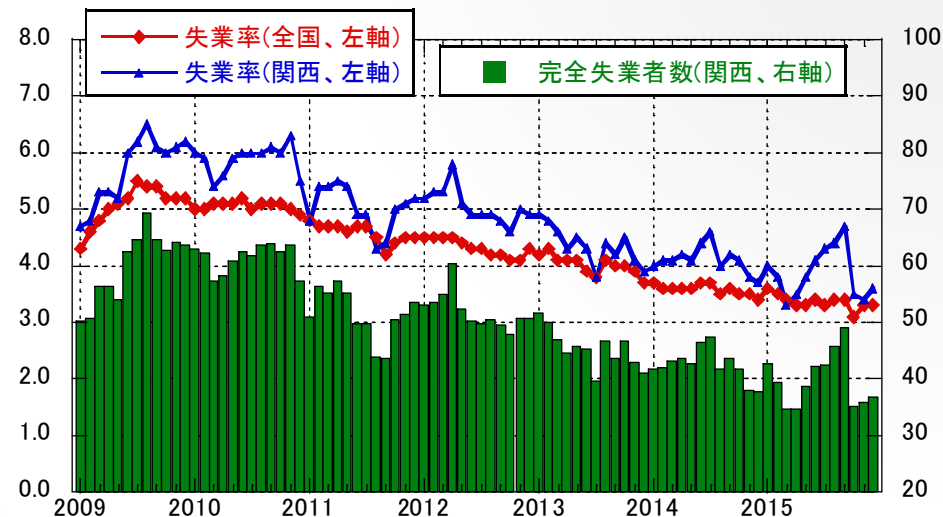
(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」

関西2府4県有効求人倍率(受理地別)(2015年12月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
12月	1.27	1.20	1.09	1.29	1.29	1.06	1.10	1.10
11月	1.25	1.17	1.07	1.24	1.26	1.05	1.03	1.09

- 12月の関西の有効求人倍率は、1.20倍で前月比+0.03ポイント上昇し、2カ月連続の改善。1991年6月(1.22倍)以来、24年ぶりに1.20倍を超えた。2015年の平均は1.11倍と昨年(1.01倍)から0.1ポイント上昇。12月の全国は1.27倍で同+0.02ポイント小幅上昇。雇用情勢は堅調である。
- 府県別では、全ての府県で上昇。奈良県で前月比+0.07ポイント、京都府で同+0.05ポイント、大阪府で同+0.03ポイント、滋賀県で同+0.02ポイント、兵庫県・和歌山県で同+0.01ポイント上昇した。
- 12月の関西の新規求人倍率は、1.89倍と前月比+0.05ポイント上昇。全国は1.91倍と同-0.2ポイント低下した。
- 大阪の産業別新規求人数は、前年比+6.9%で3カ月連続の上昇。運輸業、建設業、卸売・小売、医療・福祉、情報通信、学術研究等で増加がみられる。

完全失業率の推移 (季節調整値：%、万人、2015年12月まで)

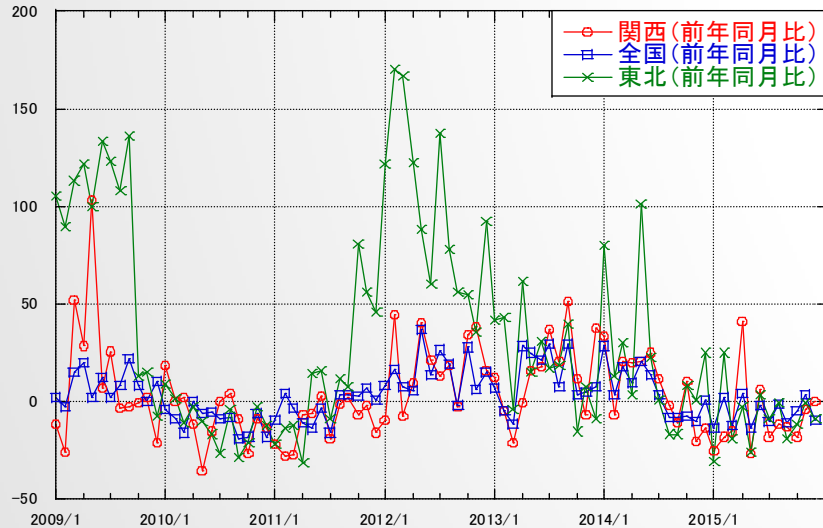


(出所) 総務省「労働力調査」

- 12月の関西の完全失業率(季節調整値：APIR推計)は3.6%で前月比+0.1%ポイント小幅悪化。労働力人口が3カ月ぶりに増加していることから、再び職探しが行われるようになったとみられる。2015年の平均は3.9%と昨年(4.1%)から-0.2%ポイント改善した。
- 関西の完全失業者数(季節調整値：APIR推計)は36.7万人で前月から+0.8万人増加。2カ月連続の小幅悪化。
- 全国の完全失業率(季節調整値)は3.3%と前月から横ばい。2015年平均は3.4%と1997年以来の低水準となった。
- 12月の全国の完全失業者数(季節調整値)は222万人と前月比+5万人増加。労働力人口が増加(非労働力人口が減少)していることから、求職者が労働市場に出てきているとみられる。
- 15～64歳の就業率(原数値、全国ベース)は73.7%と、前月比+0.1%ポイント上昇し、高水準が続いている。 5

～公共投資～

公共工事請負額(前年同月比：%、2015年12月まで)

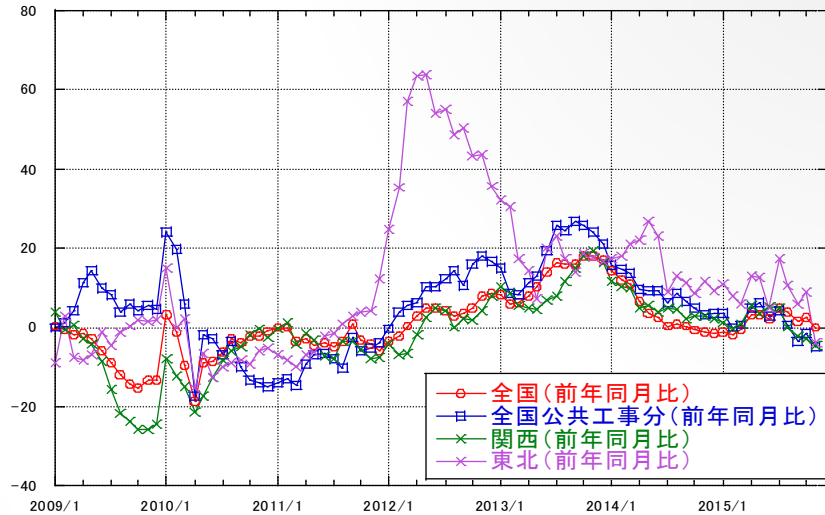


(注) 福井県を含む。

(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

- 関西12月の公共工事請負金額は973億円で前年同月比+0.1%と6カ月ぶりの微増となった。
- 全国は8,086億円で同-9.6%と2カ月ぶりのマイナス。
- 東北は1,646億円で同-8.9%と6カ月連続のマイナスとなった。
- 季節調整値(APIR推計)で見ると、関西は2カ月ぶりに前月から大幅増加、全国は3カ月ぶりの減少となった(関西：同+24.7%、全国：同-2.0%)。
- 関西の公共工事は微増となったが、全国では減速トレンドが続いている。

建設工事(前年同月比：%、2015年11月まで)

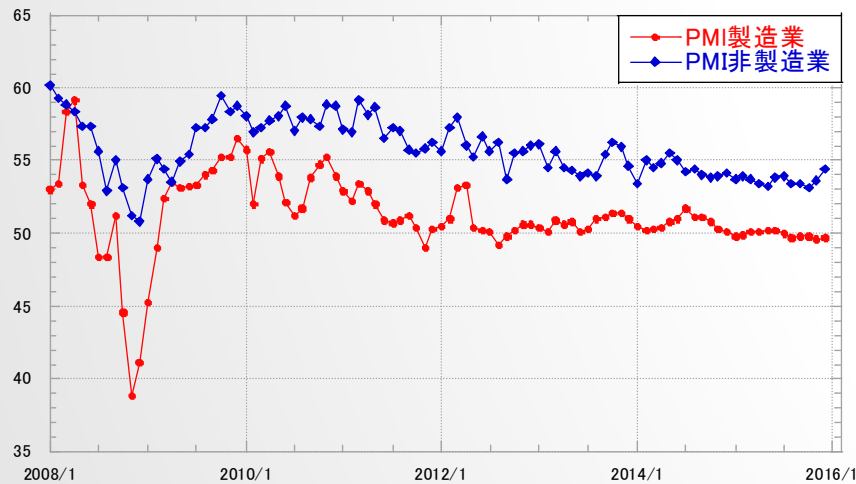


(出所) 国土交通省「建設総合統計」

- 関西11月の建設工事は5,610億円、前年同月比-4.6%と3カ月連続で減少した。
- 東北は6,338億円、同-3.9%と52カ月ぶりに減少に転じた。
- 全国は4兆7,120億円となり、同-0.1%と8カ月ぶりに微減。うち、全国の公共工事は2兆1,325億円で同-5.1%と3カ月連続のマイナスとなった。
- 東北の建設工事は震災復興による大幅増の期間を経て、ついに減少に転じた。全国の伸びは微減だが、公共工事は引き続き減速トレンドにある。さらに、関西の建設工事も減少が続いている。建設動向の停滞感は一層強まっている。

～中国経済動向①～

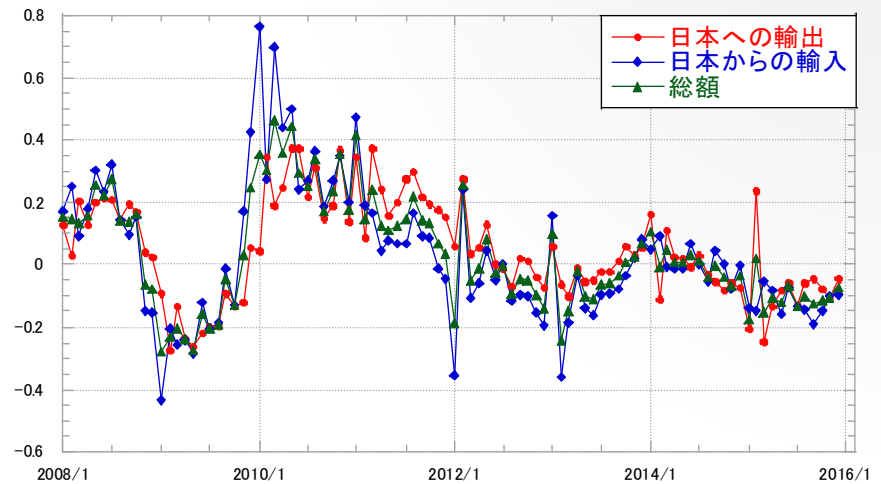
製造業購買担当者景況指数 (2015年12月まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 12月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は49.7となり、前月から+0.1ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善となったが、5カ月連続で50を下回った。一方、非製造業購買担当者景況指数は54.4となり、前月から+0.8ポイント上昇し、2カ月連続の改善。
- 製造業のうち、生産指数は52.2となり、前月から+0.3ポイント上昇し、3カ月ぶりの改善。新規受注指数は50.2となり、同+0.4ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。また、輸出新規受注指数は47.5となり、同+1.1ポイントと上昇したが、低水準が続く。一方、雇用指数は47.4となり、-0.2ポイント下落。3カ月連続の悪化。

日本との貿易 (ドル・ベース) (2015年12月まで：%)

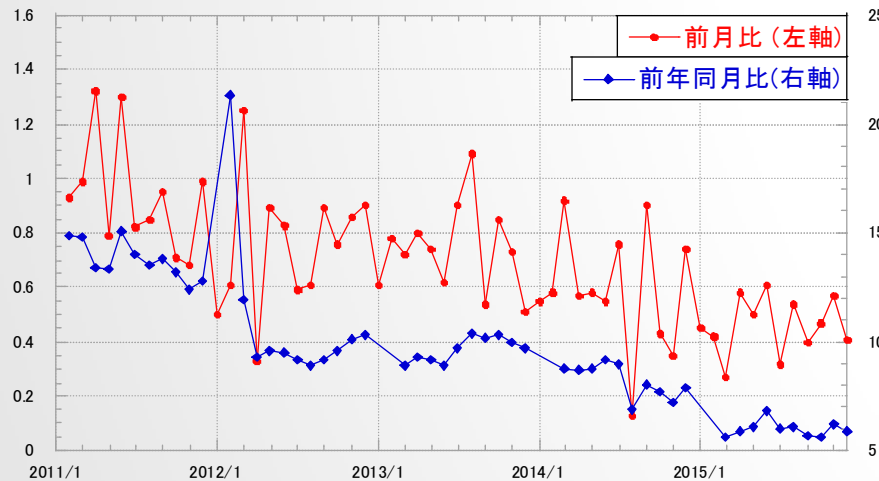


(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 12月の中国の輸出額(速報値、ドル・ベース)は前年同月比-1.5%と減少幅は前月(同-7.2%)より縮小したが、6カ月連続のマイナス。輸入額は同-7.8%(速報値)と14カ月連続のマイナス。結果、貿易収支は+601億ドルとなり、22カ月連続の黒字となった。
- うち、日本への輸出額は同-4.6%と10カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-9.5%と14カ月連続のマイナスとなった。
- 円ベースに換算すると、日本への輸出額は同-2.5%となり、2カ月連続のマイナス。日本からの輸入額は同-7.6%、4カ月連続のマイナスとなった。

～中国経済動向②～

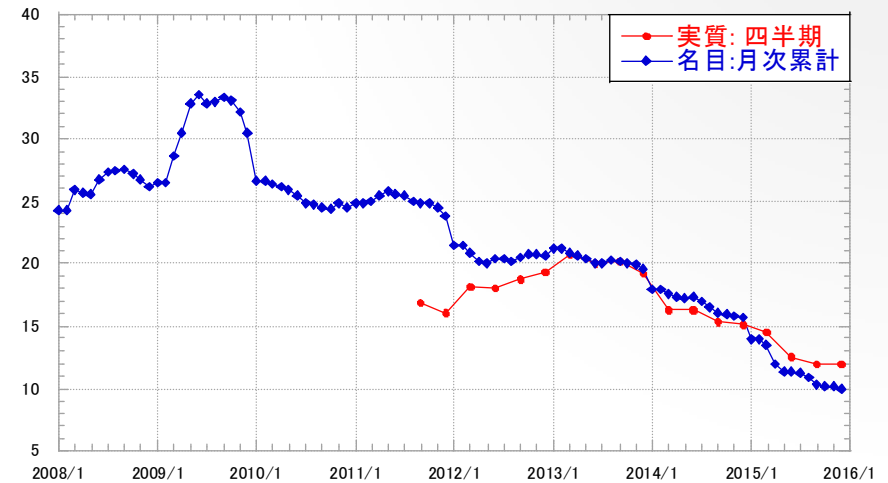
工業生産指数(2015年12まで：%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 12月の工業生産は前月比+0.41%となり、前月から-0.16%ポイント下落した。また、前年同月比は+5.9%となり、伸びは前月から-0.3%ポイント下落。2014年と比べ、2015年通年の平均は低い水準となった。
- 産業別に見ると、自動車製造業(同+12.0%)、有色金属圧延加工業(同+11.7%)、化学原料・化学製品製造業(同+9.1%)、食品製造業(同+8.5%)等が高い伸びを示す一方で、鉄道・輸送機器製造業(同+3.8%)、専用設備製造業(+3.2%)、通用設備製造業(同+1.2%)、電力・熱力生産・供給業(同-1.7%)等は比較的低調な伸びにとどまった。注目すべき自動車製造業の伸びは前月(同+13.0%)に続き、3カ月連続の高い伸びとなった。

固定資産投資 (2015年12月まで：%) (累積伸び率)

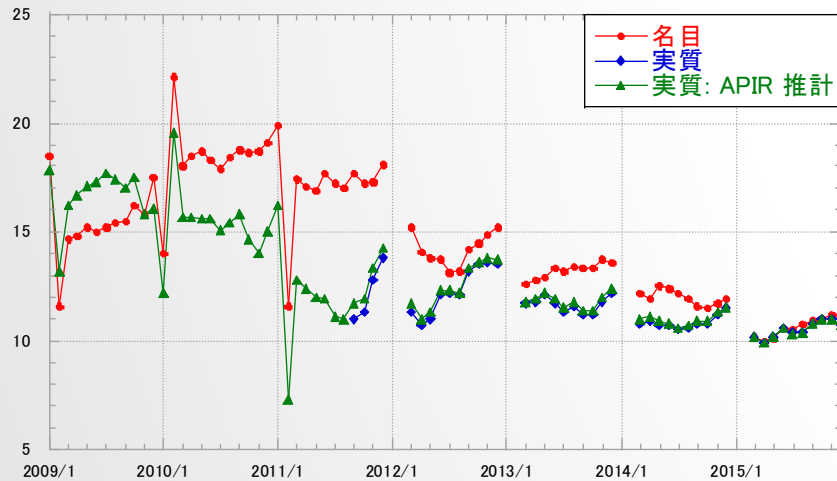


(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 1-12月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同期比+10.0%、前月(1-11月期:+10.2%)から-0.2ポイント低下。2015年に入って以降、低水準が続いている。
- 産業別にみれば、第1次産業は同+31.8%、1-11月期(同+28.7%)より+3.1%ポイント上昇。第2次産業は同+8.0%、1-11月期(同+8.1%)から-0.1%ポイント低下。第3次産業は同+10.6%、1-11月期(同+11.0%)から-0.4%ポイント低下した。

～中国経済動向③～

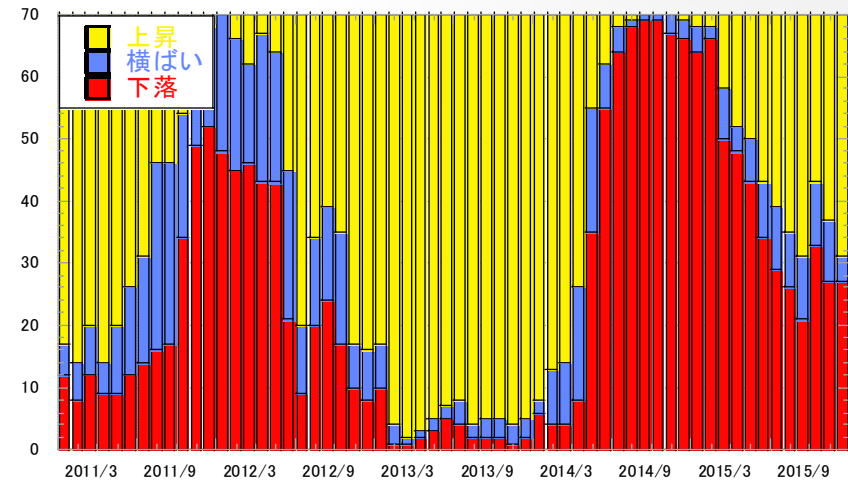
社会消費品小売総額 (2015年12月まで：%)



(注) APIR値は小売価格指数を用いて計算した値
(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 12月の社会消費品小売総額の名目成長率は前年同月比+11.1%、前月(同+11.2%)から小幅下落。緩やかだが、2015年4月(同+10.0%)から回復が続いている。

新築住宅価格の主要都市集計 (2015年12月まで：都市数)

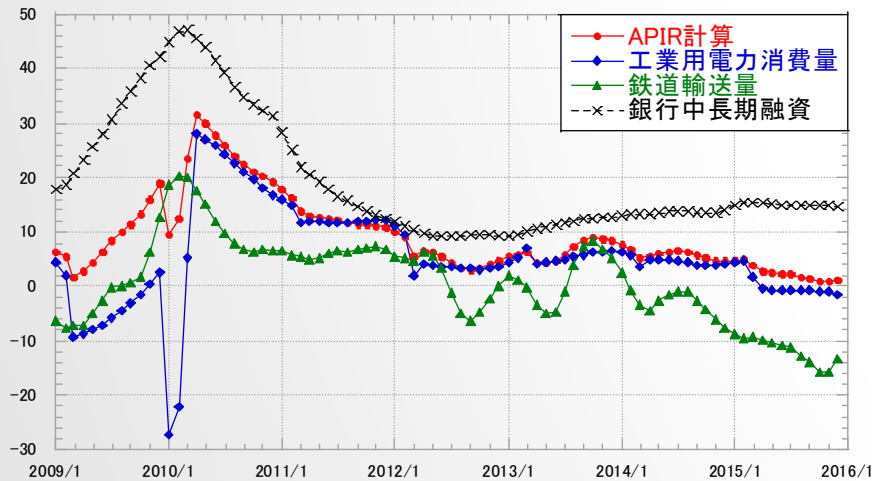


(出所) 中国税関; CEICデータベース(APIR推計)

- 不動産価格（新築住宅価格）を見ると、中国主要70都市のうち、12月は27都市で前月から下落した。39都市で同上昇、4都市で横ばいとなった。

～中国経済動向④～

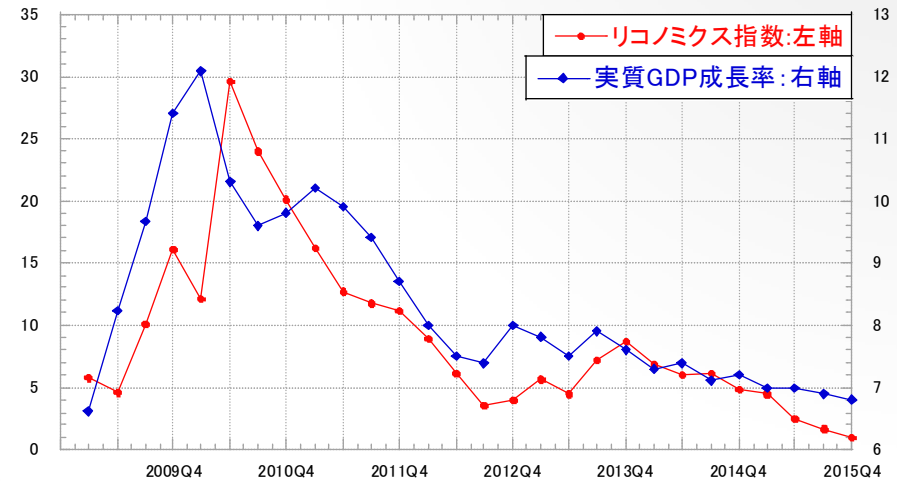
リコノミクス指数とその内訳(2015年12月まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 景気の動向をよく示す指数として、本研究所ではリコノミクス指数を参考に中国経済のトレンドを表している。
- 2015年12月のリコノミクス指数(APIR試算)は前年比+1.2%となった。内訳をみると、銀行中長期融資は同+14.6%、前月(同+14.8%)から-0.2%ポイント低下した。工業用電力消費量は同-1.5%、前月(同-1.0%)から-0.5%ポイント低下。また、鉄道輸送量は同-13.4%、前月(同-15.8%)から小幅上昇。リコノミクス指数から見た12月の中国経済は回復の兆しが見られない。

APIR試算のリコノミクス指数と実質GDP成長率の推移(2015年10-12月期まで:%)



(出所) 中国国家统计局; CEICデータベース

- 2015年10-12月期の実質GDP成長率は前年同期比+6.8%となり、前期(同+6.9%)より減速した。結果、2015年のGDP成長率(速報値)によれば、実質は6.9%、名目は6.4%となり、実質GDPが名目GDPを上回る結果となった。また、物価動態を見れば、2015年の消費者物価指数は前年比+1.4%上昇したが、生産者物価指数は同-5.2%となり、下落が続いている。過剰生産の物価押し上げ圧力が厳しくなっている。
- 業種別にみると、第1次産業の成長率は同+3.9%、第2次産業は同+6.0%、第3次産業は同+8.3%となった。第3次産業は比較的堅調な伸び率である。

※関西経済のトレンド 評価基準について

- ・ 生産：近畿経済産業局『近畿地域鉱工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 貿易：大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ センチメント：内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 消費：近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 住宅：国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・ 雇用：厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・ 公共工事：西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。